

■ 柏谷メソッド 令和2年度司法試験合格者インタビュー

[インタビュアー]

今回の合格者インタビューは令和2年度の司法試験に合格されたAさんです。Aさん、簡単に結構ですので自己紹介をお願いします。

[Aさん]

令和2年合格のAと申します。私の場合は法学部を卒業して新卒で働き、ロースクールに行ったんですが司法試験がうまくいかなくて、その後10年ぐらい社会人をしております。途中で一念発起して働きながら夜間のロースクールに行き、翌年の予備試験はなんとか受かったんですけども、その翌年の司法試験には受かりませんでした。そこで柏谷先生に指導をお願いして、令和2年に合格したという経緯です。

[インタビュアー]

10年ほど社会人をしていたということですが、どのようなお仕事をされていたのですか？

[Aさん]

普通の事業会社で管理系の職種に就いています。直近だと5年くらい経理財務系の仕事をしております。

[インタビュアー]

社会人をしながら司法試験合格を目指すのはなかなか大変だと思いますが、そもそも法曹の世界を目指されたきっかけは何でしたか？

[Aさん]

ありがちですが、たまたま法学部に進んでいたものですから。周りもそういう雰囲気だったので自分もロースクールに行ったというような感じです。一度社会人にはなりましたが、司法試験に合格したいという気持ちがずっと残っていて。このままだと引きずってしまいそうだったので思い切って司法試験に気持ちを振った方がいいかなと思いました。

[インタビュアー]

並々ならぬ強いお気持ちがあったから頑張れたのだと思いますが、柏谷メソッドと出会ったきっかけは何だったのですか？

[Aさん]

ロースクールに行った後、予備試験には何とか受かったんですが司法試験に落ちてしまったんですよね。その時に答案分析をしていて腑に落ちない点がありまして。なんといいですか、コンテンツとして中身がちゃんと書けている答案よりも、つかかりなく読める答案のほうに点がついているなといった印象があり、すごく不思議に思っていたのですよね。

そんな時にたまたまYouTubeで「合格する答案というのはつかかりがなく読める答案だ」というようなことを述べておられる柏谷先生の動画を見かけて、自分が感じていた疑問と通ずるものを感じ、コンタクトをとったという経緯です。

[インタビュアー]

たまたま柏谷メソッドの動画をYouTubeで見つけたんですね。敗因分析をされていて引っかかっていたことの答えが見つけれそうだと思い受講を決めたという感じでしょうか。

[Aさん]

そうですね。ただ、300時間ぐらいの動画を見る必要があることや受講料のことなどですぐには決断できず、1月の時点でとりあえず「答案だけ見てもらいたい」という相談をしました。その後、4月ぐらいに予備校の大きな模試を受けたときにやはりうまくいかず、相談する先がなくて困ってしまい、ゴールデンウィーク前の時期に再び柏谷先生にコンタクトしました。

[インタビュアー]

自分のやり方だと限界があるなと思って受講を決めたということですね。

[Aさん]

はい、それは間違いないです。セルフチェックだとどうしてもうまくいかないからやっぱり誰かに見てもらう必要があるなと。いろんな人に頼むのですがどうもうまくいかず、最後に「やっぱりあの先生かな」と。

[インタビュアー]

4月の模試でうまくいかないなと思い受講を決意し、ゴールデンウィーク前から柏谷メソッドの学習を開始。そこからどのようなスケジュール感で勉強を進めていったのでしょうか？

[Aさん]

その年はコロナの影響で試験が8月だったので100日ぐらいの勉強期間があったのですが、その時点ではあと何日あるかわからない状態で。ですので本来は300時間ある講義動画を見る必要があるのですが「もう先に答案を書いた方がいい」ということになり、過去問の答案作成に取り掛かりつつ、見れるだけ講義動画も見ていくというスケジュールで進めました。

[インタビュアー]

いつ試験本番日が来るかわからないという非常に緊張する環境の中での勉強だったのですね。ちなみに、受講前にご自身の課題だと明確に感じていたところはどこですか。

[Aさん]

予備試験には受かっていたことや、前回の司法試験の成績も箸にも棒にもかからないという感じではなかったので（1502人合格のところ1700番台、合格点810点のところ787点。点差は23点程度。論文換算で13点不足）、敗因が「知識」ではないだろうとは思っていました。

自分の周りで受かった人を見ていても、表層的な部分で読みやすい答案に点がついているなと。小問3つのうち1問が全くできていない人でも、3問とも書けている僕と同じくらいの点になっていることもあって。だからおそらく敗因は知識でなく「書き方」だろうなという印象があり、そこが課題だとおぼろげながら思っていました。

[インタビュアー]

実際に講座を受講して、そこをどう克服されたのですか。

[Aさん]

先生の指導は本当に参考になりました。まず1つは字。もともと「字が汚いんじゃないかな」とは思っていたのですが、これまで採点してもらっていたロースクールの先生方（裁判官とか研修所教官OBや試験委員経験者の人など）は「読める」と言う人と「読めない」と言う人の両方がいて。

ところが柏谷先生の場合、まず4月の終わり頃、最初に答案のFAXを送った時に「FAXの字が汚い」と。「字が汚くて判読しづらいという採点実感を持っている」というふうにご指摘いただき「やっぱりそうか」と思いました。

もう1つよく覚えているのは、一番最初に憲法の答案を出した時だったかな、今でもよく覚えています。「F-」をつけていただいて。そのときも先生がすごく熱心に「この字は読めない」とか「こうはおかしい」とか「読みづらい」などの問題点を逐一丁寧に説明してくださって、その解説時間が2時間弱くらいになったんですよ。

[インタビュアー]

そんなにも熱心に。

[Aさん]

そうなんです。その時にふと思ったんです、実際の司法試験の試験員は1つの答案にそんなに時間をかけられないだろうなと。

それで実際に調べてみたら、試験委員会の議事録によると採点委員は1日のうち10～30通を見るのが限界だという話で。そうすると、1通あたり6枚の答案を1日あたり20通や30通、つまり9時間くらいで採点することになる。20通を9時間で採点すると1通あたり27分ぐらい。4時間のケースだと1通12分ぐらいで、1通あたり6枚の答案だとすると短いケースで1行あたり5秒そこそこ。長いケースでも1行あたり11秒とかそれぐらいなんですよね。

[インタビュアー]

そんなに早いペースで。

[Aさん]

対して柏谷先生は2時間弱の間、丁寧ではあるけれど決して冗長な読み方はされていなかった。その柏谷先生が一読しただけで問題点を指摘し尽くして1時間45分とか2時間もかかる

ということは、自分の答案は物理的にとてもじゃないけれども採点委員に読んでももらえないと思いました。

それと同時に、私がずっと不思議に思っていた「中身は表層的でそんなにちゃんとしてないけど、とりあえず一読はできるような答案」に点がつきすぎている現象への疑問が氷塊するような、謎が解けたと感じる瞬間があつて。その理由が多少なりとも根拠を持って見えてきたというところがあり、今回自分がスタイルを変えるためのとても大きな分岐点と推進力になったと思っています。

それがゴールデンウィークに入る直前ぐらいのタイミングでした。「これなら信じてついていけるぞ」という方法論への確証が持てたので、逐一、形式面などにいろいろな指摘をもらうようになりました。その最初の答案が憲法でしたけど、以降、行政法から7つ、10通そこそこくらい採点してもらいました。

本当は20通くらい採点してもらおう予定だったんですけど、仕事もしていたのであまり時間がありませんでした。働きながら書くのって大変なんです。2時間近くトップの集中力のままフルに拘束され、その後も調べものなどをしていると半日くらいかかります。

[インタビュアー]

時間がいくらあっても足りないですね。

[Aさん]

足りません。平日はなかなか時間が取れないのでだいたい土日しかないです。社会人で夜を気にしないでいいのは土曜日ぐらいしかないので。だから本当に、ちょっと言い訳になっちゃいますが、本当は20通くらいやりたかったのですがいろいろ息切れしてしまい10通くらいしか出せなかったです。

でもその度に「この字だと潰れて読めない」とか「結論先出しみたいなこのスタイルはあんまりみんなやってない」などいろいろ指摘いただいて、逐一取り入れられる限り取り入れてスタイルを直していきました。字を綺麗に書こうと思っても時間がなくなってくると字が乱れるとか、私の能力の限界もあったのですけどね。

[インタビュアー]

とても努力をされて食らいついていかれた姿が目には浮かびました。ちなみに最初、F-の答案が返ってきたときはショックを受けたりはしませんでしたか。

[Aさん]

先生は優しいので事前に「私の採点を始めてくらの場合はショックを受ける覚悟でご覧になってください」と前触れをくださっていたこともあり、大丈夫でした。

また、私の場合、社会人として予備試験を受験して受かった翌年に司法試験に落ちたわけですが。その時も働きながらを受けるのは結構大変で。かなり無理して時間とかいろんなものを

調整してピークに持って行って落ちたわけです。自分では「結構できた」と思っていたのに落ちて、それをもう1回やるっていうのは本音を言うともものすごく大変でしたので、F-の答案にショックを受けるというよりは、どっちかというと解決の糸口を出してくれたことや疑問が解明できたことのありがたみのほうが勝りました。

いろいろなものを調整してきて3年続いて次も落ちたらもうちょっと本当にどうしようもないというのがありますよね。駄目なところは駄目だと言ってもらった方が改善できるし、DとかEじゃなくて「F-」というのがある意味突き抜けたという気持ちもあって。

だからショック受けるというよりは、自分が謎だと思っていたことへの対策ががかなり根拠を持って見えてきたことの喜びというか、モヤモヤが晴れはじめて先が見えはじめてことのプラスの作用の方が強かったです。

[インタビュアー]

「次はもう落ちたくない」という強い気持ちで臨んだのだと思いますけれども、勉強の過程で「どうしてもつらいなあ」とか「不安だな」という気持ちに苛まれたりなどはありませんでしたか。とにかくついていくぞ、という気持ちの方が強かったですか？

[Aさん]

やっぱり謎が解けたからね。解ける前がやっぱりつらい。

[インタビュアー]

謎が解けたから、もうあとは努力するだけだと。

[Aさん]

そちらの気持ちの方が強かったかな。敗因分析していた時、「中身的には合格答案と比べても決して劣ってないどころか、最良目もあるかもしれないけど3題あるうちの1題分ぐらいは自分の方が勝ってるのにな、なんでだろう」というふうに思っていたんですよね。「ベテランになりすぎてついに頭がおかしくなって僕の目が曇ってきたのか」とモヤモヤしていた時に比べたら、対策と根拠が見えてきたことで「やろう」という気持ちの方が辛さより勝っていた。それに、有無を言わず受からなきゃ終われないというのもありました。

ちなみに仕事の両立という面では体力的にも時間的にもいろいろと厳しく……。かなり厳しかったのは確かですが、つらいとしたら、メンタルよりフィジカルでしたね。メンタルの方は、むしろ励まされたというか勇気づけられたというかそういう面があったので、辛いという気持ちより目標に向かってという気持ちが勝ったという感じですね。

[インタビュアー]

改めてになるのですが、柏谷メソッドと他の予備校の講座との大きな違いはどのような点でしょうか。

[Aさん]

根本的にいろいろ違うと思いますが、まず2つあります。司法試験はおそらくプレゼン的な採点の要素と、あとは中身のコンテンツという2つの要素の側面があると私は思っています。

まず、たぶんこれは本当に他の追随がないくらいだと思うのが、柏谷先生の添削ですね。学問的に優れた教授などで、コンテンツ的に優れた完璧な答案を指導してくれることがあるとは思いますが、その答案が本番の司法試験で必ずしも評価されないという事象があると思っています。それは先ほど申し上げたような、採点者の時間的稼働や分量などがネックだと思っていますが、柏谷先生はそういった司法試験の実際をかなりよく研究されておられる。

そういう論文指導を専門で十数年やられている先生に採点をしていただけるっていうのがとてもいいと思います。しかもそれが実況中継の動画として見られるというところは、ほぼ追随がないくらい優れていると思います。現実的にそういういい採点をしてくれる他の方ってなかなか見つからないです。ここがまず1つめのプレゼン面ですね。

コンテンツ面でも司法試験の実際がよく分析されており、過不足のない内容になっています。時間のない社会人だから特に思うのですが、必要な内容が動画に自然的に集約されていると思います。先生がフルタイムで受験指導されているというのもあると思うんですが、下手すると六法すら引かなくても動画を流し見するだけで司法試験の範囲の知識の全てがカバーされる。講義内で先生自身が各種の基本書や判例原典や参考文献などを見ながら解説してくれるので、受験生の立場から見てこんなに理想的なコンテンツを私は他に経験したことがないです。本当に助かりました。

答案採点と動画、これだけやればいいというのは間違いなくその2つですね。プレゼン面とコンテンツ面の2つ、本当に群を抜いて良かったと思います。

[インタビュアー]

2つ目におっしゃっていただいた、流し見するだけで知識が網羅的にカバーできるというのが、法的思考力を養う「インプット講座」、これだけやれば合格できると言ってもいいくらい優れた理想的なコンテンツだという風におっしゃいましたね。

もう1つよかったのが添削で、これが論文式試験の作法が身につく「アウトプット講座」の方ですね。添削自体は10通ぐらいで最初はF-ということでしたが、後半、たとえば8通目9通目などになると、改善されて点数評価は上がっていったのですか。

[Aさん]

F-はその後はもらってないかもしれないですけど、Fは何回かはあったのではないのでしょうか。Eくらい、よくてCくらいあったかな。Dくらいももらったかもしれない。BとかAはたぶんもらってないと思います。1回Cももらったことがあったかどうか、そんなものです。良くてDぐらいだったかなという感じです。

[インタビューアー]

その分学びが多かったということですね。

[Aさん]

そうでしたね。Dがついたとしても「採点員にいろんな個性がある中で、一番不利な人にあつた時のDだから」というようなことを説明されました。「なぜこれをDにするか」という根拠を持って採点してもらえるのがすごくありがたかったですね。

[インタビューアー]

悪くてもDだってことですものね。

[Aさん]

そうですね。否定的な評価をもらったとしても納得できる根拠をいただけたということが、改善と自分の合格にとってやっぱり大きかったです。

[インタビューアー]

講座を受講する中で、特に印象的だったりよく覚えていたりする先生の教えやアドバイス、言葉などがありますか？

[Aさん]

「答案の解説はしてもらえない。徹底的なサービス業と思って答案を書きなさい」と言われながら採点してもらっていましたね。そこは根本的に変えなきゃいけないなと思ってやりました。

[インタビューアー]

サービス業だと思って答案を書くという教えですね。相手の読みやすさを大事にした答案を作りなさいということですね。

学習を進める中で、「いけるかも」「答案の書き方も上達したな」といった手応えを感じた瞬間はありましたか。

[Aさん]

どうですかね、あつたけど確信はしていなかったかもしれません。落ちるかもしれないと思いつつも、もう他に手がなかったから。一番最初のF-をもらった時に「これで駄目ならもうやめなきゃいけないかもしれない」という気持ちの方が強かったです。その後も、「いける」というほどは思っていなかったけれども「変わっただろうな」とは思っていましたね。そこが手応えだとは思います。

[インタビューアー]

このインタビューをご覧の方にも同じようなことで悩んでいる方がいらっしゃるかもしれません。司法試験に合格するための学習を進める中で、何かアドバイスがあればお願いいたします。

[Aさん]

長くかかったから偉そうにアドバイスを差し上げられるようなことはないですけども、私なりに司法試験を分析した時に、先ほども申し上げた2つの観点にだいたい集約できていると思います。それはコンテンツの学力ということと、書き方というプレゼンということ。あと、しいていうと事務処理っていうのもプラスでちょっとあるかもしれないですが。

とにかくコンテンツとプレゼンとあって、たぶんその人の学習段階やタイプによって傾向や対策することが違うと思うので、ご自身を分析した時に、合格へのギャップがどちらにあるかを把握されて、最善の対策をとるのがよいのかなということぐらいでしょうか。

少し抽象的かもしれませんね。私も苦労した方で、そんなに守備よく受かった人間でもないですからあんまりいいアドバイスができないですね。

[インタビュアー]

社会人としてお仕事と両立しながら勉強するという面ではいろいろとアドバイスできることはありそうですが、いかがですか。

[Aさん]

社会人といっても人によって様々なのでひとくちに言うのは難しいところがありますね。人によって残業時間が月ゼロの人もいれば100時間の人とか30時間の人もいるでしょうし、子育て中だとかパートナーがいるかいないかでも全く条件って違ってきますからね。学習段階も人によって違いますし、私みたいに失権しているとか、ある程度1回は体系的に法学をやったことがあるかないかでも違うので、なかなか十把一絡げに言うのは難しいとは思いますが、たしかに社会人出身で受かったことについてはたまに聞かれます。

夜間の大学院に行っていたので社会人の友人や知り合いが2桁以上いまして、その方たちを見ていてあえていうなら、夢もなければ身も蓋もないことを申し上げますが、みなさん無茶苦茶な仕事と勉強の両立の仕方をしていて、ということです。

私もそうでしたが合格した周りの人たちを見ていてもとにかくめちゃくちゃ時間がない。授業に早めに行くために、会社がいいというのなら7時に行って早く退勤したり、昼休み中も含め空き時間は全部勉強したりと、プライベートを犠牲にしつつ本当にめちゃくちゃ勉強しているなという傾向はやっぱりありました。

[インタビュアー]

そうやって勉強に時間を費やして、なんとか合格を勝ち取っている人がたくさんいらっしゃるということですね。

[Aさん]

ほぼそういう人ですね。でもそこまで努力しても受からないんだという人も多いのであまり無責任なことは言いたくないですが、そういうふうによりながら受かる方もいらっしゃる。

ただ、なんていいですか、決して宝くじを引くような確率ではなくして受かっていることもまた事実だと思います。

[インタビュアー]

社会人で時間がないからこそ、効率的な勉強を進めたいわけですよね。

[Aさん]

それは間違いないです。

[インタビュアー]

その点で、社会人としての受験生という立場で、この講座はとても効率よく学習ができると思いになりますか。

[Aさん]

先ほど申し上げた通り、いっちゃんありがたかったのは、動画は全部がバランスよく研究されて網羅されていたというところ。ここにはとてもとても助けられました。そこはこの講座の良さであり、効率という面では他にありえないぐらいの良さです。

[インタビュアー]

忙しい方にこそお勧めできそうですね。

[Aさん]

それはもう、こういう場だからじゃなく、僕は実際の周りにもずいぶん勧めてますから、真実お勧めできると思います。

[インタビュアー]

ちなみに、柏谷メソッドの講座やアプリなど、モチベーション維持の面で役に立ったと思うことはありますか。

[Aさん]

LINEで毎日、日々基本的にこれぐらいやっていますということを報告するのですが、かなり先生も大変な中、レス良く連絡しつつ伴走してくださったのはすごく助かりました。

[インタビュアー]

毎日欠かさずやりとりをされるんですね。

[Aさん]

そこまで立派な受験生ではなかったですけどね。仕事も結構忙しくて無勉の日もありました。結局なんだかんだ4月のおしまいぐらいから始めて試験が8月だったから100日そこそこでしたけど、毎日勉強できた時期もあれば途中で何十日か抜けた日もありました。

ただ、勉強が抜けたら抜けたでやっぱり「ちょっと遅れてるな」みたいな気分になりますから、「すいません、2週間ぐらい勉強できていませんでした」と正直に連絡していました。そういうふうにもしないともしかすると倒れてたかもしれないので、そういう意味でも助かりました。

[インタビュアー]

見守ってくれる存在があると気持ち的に支えられる部分はありそうですね。

[Aさん]

はい、やっぱり大きいと思います。

[インタビュアー]

Aさんは今後、法曹資格をどのように活かしていくおつもりですか？

[Aさん]

これから司法修習して、明日も就活の面接が入っていきまして、おいおい何かできそうなことがあればと思って探しています。駄目なら駄目で会社の方へ戻って持ってきてもいいよぐらいな手応えもありますので。まあそんな形で、いい年して法曹になりましようかと考えています。

[インタビュアー]

会社に戻るという選択肢があるのは保険ではありますが、せっかく強い思いを持って合格された司法試験ですから今後活かせるといいですね。

改めてになりますが、今の司法試験に合格するために必要な能力とはどんなものだと思いますか。

[Aさん]

人によって言うことは違うと思いますが、私なりに考えたのは先ほど申し上げたコンテンツの力とプレゼンの力の大きな2つ、あとはちょっとだけ事務処理能力も関係するかな。その2つプラス1くらいの力かなと分析しています。

[インタビュアー]

そのどれがご自身に欠けているかというところをしっかりと把握して対策をするのが大事ですね。

[Aさん]

全くそうだと思います。私の場合はプレゼン面が欠けていたというのが分析した敗因で、そこを改善して最終的に1000番ぐらい順位を上げてどうにかなったというところですよ。

先ほども社会人の勉強の仕方について聞かれましたけど、答案を書く時間は物理的に拘束されてしまうので、時間のない社会人としてはそこがやっぱりネックだなと思いますね。

[インタビュアー]

しかし実はそこがとても大事ということですね。

[Aさん]

そうだと思います。私は時間もなかったので100日くらいの勉強で600番ぐらいの着地でどうにかかなりましたけども、本当はそこをもう少しさぼらず、答案も10通と言わずに何通でも見てもらってテコ入れしたらもうちょっと点は出たと思います。まあ受かって満足していますが、私の場合はそこだったと思っています。

[インタビュアー]

1000番ぐらい順位を上げての合格ということでしたが、改めて成績がどれぐらい変わったかを教えてください。

[Aさん]

1回目の時は憲法と民法と刑法がDとEとFですごく悪かったんです。残りの科目はA2つにB3つくらい。最後の着地は憲法と民法と刑法のDとEとFが全部Aに変わって、他のABの学科は基本的に成績が維持か、1個、BがCになったとかもありますが、残りの科目はだいたいランクをほぼ維持で、Aが合計3つでした。100点以上点が上がって、900何点はついたかな、順位も1700番くらいだったのが1000番以上も上がって合格することができました。

[インタビュアー]

受講前と後とでは、実際の知識量自体には変化を感じていないですか……？

[Aさん]

当時のFは3000番以下だから最下位も最下位なんですけど、そのFだった刑法の成績が1年で急にAに変わる、しかも他の科目の成績から逆算すると良好水準どころか優秀な水準ぐらいのAがつくという、天変地異が起きたごとく学力が伸びるなんてことは絶対あり得ないと思うんですね。純粋な学力として。

だから本当は書き方の問題が大きかったということで、これはこういう場だから言うのではなく、本当に先生のご指導があって徹底的に改善したからだ。先生のご指導がなければまた落ちていた可能性も濃厚だったのではないかと思います。書き方、プレゼンの改善によって救われたと思っています。

[インタビュアー]

柏谷メソッドに出会えて本当によかったですね。

[Aさん]

本当に合否が変わったと思っているので、よかったです。

[インタビュアー]

可否を分けた柏谷メソッドですが、受講しようかどうかを検討されている方に何かメッセージや励ましなどがあればお願いいたします。

[Aさん]

そもそもこの講座に出会えた時点、使った時点で他の指導を受けている人に比べて格段優位なところに立たれていると私は思います。なので、基本的にはこの方法論にちゃんと従い、きちっとついていけば受かると思うので、信じて取り組まれることをお勧めしたいと思います。

[インタビュアー]

本日は貴重なお話を聞かせていただきどうもありがとうございました。合格おめでとうございます。

[Aさん]

どうもありがとうございました。